

雌判別精液による受精卵移植で雌子牛誕生

畜産センターでは、乳を生産する高能力雌牛を確保するため、90%の確率で雌が生まれる雌判別精液を活用し、人工授精及び受精卵移植を行っています。

今年度は、雌判別精液を供胚牛に授精し、採取した受精卵の移植で初めて雌子牛が誕生し、また、人工授精も含め過去最高の 15 頭の雌子牛が誕生しました。

雌判別精液は特別な処理を行い作成されているため、通常の未判別の凍結精液に比べて人工授精の受胎率が低下しますが、受精卵移植の場合には受胎率に差がありません。

今後は、当センターで生産・育成した雌牛及び雌判別精液による受精卵を農家に譲渡して、高能力の雌牛を供給することで、酪農経営を支援していきます。



当センターで雌判別精液の受精卵移植で
初め生まれた雌子牛（3月6日誕生）